


日 月 送 受 號 番 先 議 合				欄 號 省 生 厚			
第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
送	送	送	送	送	送	送	送
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日



案 起 昭 和 十 九 年 十 一 月 二 日

受 局 付 課 主 查 事 記 官

局 長 次 官

大 臣

軍 十 一 月 十 六 日

官 務 各 課 長

文 任 高 長

軍 需 保 護 院 院 長

各 部 長

總 務 課 長

「四百十億決戰野蓄強潤期間」

里乙ノ推別

判 決 十 月 八 日 合 校

行 施 十 一 月 十 七 日

合 議 先		番 號		受 送		日 月	
第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
送	送	送	送	送	送	送	送
受	受	受	受	受	受	受	受
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日
<p>           實施ニ関スル件            今般別紙實施要綱ニヨリ各府道村            縣ヲレテ四百十億決戰財普通強調期            間レテ没込セシメ全名的ニ強力ナル財普通            推進ヲ實施セシムルニト相成之ガ協力            方大務者不任財普通局長ヨリ申一然            有之候条不任即配意相炊度         </p>							

總  
の  
厚  
生  
次  
官

貯貯第一八五四號

昭和十九年十月三十一日

大藏省國民貯蓄局長



厚生次官 殿

拜啓 時下晩秋之候愈々御清穆之身奉賀候  
陳者今般別紙實施要綱ニミリ各都道府縣ヲシテ「四百十億決戦貯蓄  
強調期間」ヲ設定セシメ全國的ニ強力ナル貯蓄推進ヲ實施トシムルコ  
トト相成候ニ付テハ何分ノ御協力相煩度此段御通知旁々得貴意候

敬 具

裏面白紙

274

裏面白紙

大蔵省國民貯蓄局

一 趣 旨

昭和十九年度ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ハ年廣當初ヨリ漸々順調ナ  
 ル經過ヲ辿リ來リタル處年廣半バニ於テ國民貯蓄增加目標額ハ五  
 十億圓ヲ追加シ四十億圓ト改訂セラレタリ斯ル巨額ノ追加額ヲ  
 年度末迄ニ達成スルハ實ニ容易ナラザルモノアリト雖戰局ノ決戦段  
 階ニ突入セシムル今日全國民ハ此ノ改訂目標額ノ必成ヲ期スルハ勿論  
 更ニ之ヲ奮々突破スルノ覺悟ヲ以テ凡ユル困難ヲ克服シ貯蓄奉公  
 ノ誠ヲ致シ決戦貯蓄ノ完遂ニ邁進セザルベカラズ  
 茲ニ「四百十億決戦貯蓄強調期間」ヲ設定シ所期ノ目的達成ニ道  
 徳ナキヲ期セントス

二 名 稱

四百十億決戦貯蓄強調期間

（註）右名稱中「四百十億」ノ代リニ當該都道府縣ノ本年度改訂  
 總目標額ヲ用フルモ差支ナシ

裏面白紙

三、期間

自昭和十九年十二月一日（金）一ヶ月

（註）一、期間ハ都市又ハ農村等ノ實情ニ即スル様之ヲ地域のニ區分

シテ實施スルハ差支ナシ

二、大東亞戰爭第三周年タル十二月八日ヲ中心ニ特ニ敬意昂揚

ト貯蓄認識ノ徹底ヲ圖ルニ努メ本期間設定ノ目的達成ニ資

スルモノトス

四、要領

都道府縣ニ於テハ廳内關係部課ヲ動員シ夫々ノ機能ヲ充分活用スル

ニ努メ以テ改訂日増殖ノ年度内達成ニ充分ナル金額ヲ本期間中ニ確

保スルコトヲ目途トシ特ニ左記諸事ニ留意シ各地方ノ實情ニ即セル計

計畫ヲ樹立實施スルモノトス

一、今回改訂セラレタル全國及當該都道府縣ノ市區町村ニ於ケル貯蓄

總目録等ヲ周知徹底トシ之ガ完遂ノ爲一環ノ奮起ヲ促スニト

2. 貯蓄實踐ノ不徹底部面ニ對シ時ニ強力ナル推進ヲ行フコト
3. 最近ニ於ケル通貨膨脹ノ情勢ニ鑑ミ本期間中ニ於テ法人個人ヲ箱  
ジ極力手持現金ノ貯蓄化ニ努メシムルコト
4. 新興所得者階層ノ貯蓄推進ニ全力ヲ傾注シ其ノ實效ヲ收ムルニ努  
ムルコト
5. 商工業部面ニ對スル貯蓄組合ノ普及ト應詔貯蓄ノ徹底ヲ圖ルコト
6. 各種生産物代金ノ振替簿制度ヲ全面的ニ徹底スルコト
7. 各階級等ニ於ケル諸給與中末賞與等ニ對スル貯蓄化ノ徹底的實行  
ヲ期スルコト
8. 本期間ヲ機トシ勤勞ノ強化等ニ家庭勞力ノ内務副業等ヘノ勤員等  
ニ依リ貯蓄源泉ノ涵養ヲ圖ルト共ニ強力ナル「同一合ヒ」運動ヲ  
展開シ決戦貯蓄生活ノ勵行ヲ期ヒシムル様指導スルコト
9. 國民貯蓄組合指導員・地域貯蓄指導員・勞務者貯蓄指導員等ヲシ  
テ此ノ機會ニ遺憾ナク活動ヒシムルコト

裏面白紙

其大政翼賛會其ノ他各種團體ヲシテ積極的ニ本計畫ニ協力セシムル  
モノトス

本新聞雜誌等言論報道機關ノ積極的協力ヲ求メ本計畫ノ遂行徹底ニ道  
途ヲキヲ朝スルモノトス

各都道府縣ニ在リテハ地方ノ實情ニ即應スル實施計畫ヲ樹立シ十一月  
十五日迄ニ之ヲ大藏省國民貯蓄局ニ報告スルモノトス

本新聞實施計畫ノ報告ハ左ニ依ルモノトス

1. 實施要領及實施細目

2. 實施計畫

本新聞中ニ於ケル各種企畫ノ日割、從事者及其ノ貯蓄方面、對象等  
ノ具體的ナル實施計畫

各 屏

傷 兵 院 神奈川縣小田原市風祭

東京衛生試驗所 神田區和泉町二

大阪衛生試驗所 大阪府東區京橋三

衛生學研究所 東京都芝區白金三光町四二五

長島愛生園 岡山縣邑久郡裳掛村

星塚敬愛園 鹿兒島縣肝屬郡大始良村

栗山樂泉園 群馬縣吾妻郡草津町

東北新榮園 宮城縣登米郡新田村

多摩全生園 東京都北多摩郡東村山

松丘保養園 青森縣東津輕郡新城村

邑久光明園 岡山縣邑久郡裳掛村

大島青松園 香川縣木田郡庵治村

菊池意楓園 熊本縣菊池郡合志村



奄美郡光園

鹿兒島縣大島郡三方村

鹿兒島縣

沖繩縣國頭郡羽地村

宮古郡

沖繩縣宮古郡平良村

武蔵野

埼玉縣北足郡大門村

村松晴嵐莊

茨城縣那珂郡村松村

天龍莊

静岡縣濱名郡赤佐村

山陽莊

山口縣吉敷郡東波村

再春莊

熊本縣菊池郡西合志村

健康保險千葉療養所

千葉縣千葉郡千城村

軍人遺族東京職業  
補導所

淀橋區西大久保四ノ一七〇

東京機械技術員養成所

品川區大井澁州町二三八

大阪機械技術員養成所

大阪府北河内郡寢屋川町

愛知機械技術員養成所

愛知縣名古屋市中區西志賀町

字人作



昭和一九〇七號

昭和十九年十一月九日

大藏省國民貯蓄局長



# 厚生次官 殿

啓 先般「四百十歳決戦貯蓄強調期間」實施ニ關シ歳貯第一八三四  
 號ヲ以テ種々御依頼申上候様境下ノ情勢ニ鑑ミ右様中要領ノ(3)及(6)  
 内ニ付テハ更ニ詳細ノ施策ヲ講ズルノ要有之候様利紙一及二御送申上候  
 御参考ニ登セラレ度此段重而御依頼申上候

敬 具

裏面白紙

(別紙一)

手持現金ノ貯蓄化促進要項

一、概 旨

近時通貨膨脹ノ趨勢愈々顯著ナルノミナラス時恰モ歳末ニ當リ資金ノ  
移動ニ活潑ニシテ一般手持現金ノ急増ヲ見ルヲ例トスルニ儘ニ本要  
項ヲ實施シ此等浮動資金ノ貯蓄化ノ促進ヲ圖リ以テ通貨膨脹ヲ抑制シ  
戰時國家經濟ノ計畫的運営ヲ圓滑カラシメ以テ緊急軍需ノ増産ト國民  
生活ノ安定トヲ期セムトス

二、要 領

都道府縣ハ管下ノ諸團體並各種貯蓄取扱機關ト密接ナル連絡ノ下ニ在  
ル左記ニ依リ有效適切ナル手持現金ノ貯蓄化促進方策ヲ樹立シ之ヲ實  
行スルモノトス

(1) 現金ヲ多額ニ手持スルハ一朝不慮ノ災患ニ遭損セバ直チニ喪失ノ危  
險ヲ伴フトコロ之ヲ貯蓄化シ手持現金ヲ減少シ億々ハ安全ナルノミ

ラズ而モ有利ナルコトヲ充分徹底セシムルコト

(2) 空襲其ノ他災害等ニ於ケル政府ノ非常金融對策時ニ長期貯蓄ニ付テハ期限前ノ拂戻ヲ受ケ得ルコト等日常現金手持ノ要ヲキテ強調シ貯蓄ニ對スル安全感ト信頼ノ念ヲ深カカラシムルコト

(3) 手持現金ヲ減ジタルガ爲生活及業務等ニ支障ヲキテ實證セシムルノ好機タラシムル邊指導スルコト

(4) 手持現金ハ個人ハ勿論法人(金融機關ヲ除ク)組合其ノ他團體等ヲ問ハズ一齊ニ一限必ズ預入セシムル邊強力ニ指導スルコト

(5) 實施時期ハ各都道府縣ニ於テ十二月中ノ適當ナル期日ヲ撰ビ「手持現金貯蓄強化日」又ハ「手持現金強召日」(假稱)ト定メ例ヘバ手持現金ノ一定割合ニ依ル貯蓄ヲ各戸ニ指導シ實施者ニハ其ノ證ヲ交付シ戸毎ニ之ヲ表示セシムル等ノ方法ヲ採ルコト

(6) 各種貯蓄取扱機關ハ「手持現金ノ貯蓄強化日」又ハ「手持現金強召日」(假稱)ニ於テハ都市ト農村等トノ區別ニ從ヒ夫々地方ノ事情

ニ即シタル方途ヲ繕ジ左ノ如ク可及的簡易ニ預入ノ便ヲ圖ルコト

(4) 主要ナル區域等ニ對スル係員ノ特派等臨機ノ措置ヲ採ルコト

(5) 貯蓄取扱機關ノ所在地ヨリ遠隔ナル地方ニ對シテハ出來得レバ巡回取扱日ヲ定メ預入者ノ便宜ヲ圖ルコト

(7) 手持現金ノ可及的多額ナル預入ヲ目的トスルモノナルヲ以テ必ズシモ長期貯蓄乃至ハ組合貯蓄タラシムルヲ要セズ、要求拂ノ一般預貯金トスルモ支障ナキコト

(8) 郵道府縣ハ一月末迄ニ管下ノ實績ヲ調査シ國民貯蓄局ニ報告スルコト

(別紙二)

決戦貯蓄生活促進要項

一、趣旨

本期間ニ於テハ一層消費生活部面ニ於ケル資金ノ浪費ヲ防止シ勤勞ヲ進ズル旨ヲ剛健ナル生活態勢ヲ確立シ以テ決戦貯蓄生活ノ徹底ヲ期セントス

二、要領

- (1) 從來ヨリ實施シ來リタル向又ハ戦時第一二七八號及同第一五〇一號ニ基キ設定セル「貯蓄生活」以テ強調期間「」ヲ實施シ來リタル向ト雖モ此ノ際之ヲ徹底強化シ一層ノ徹底ヲ期スルコト
- (2) 從來實施シ來レルモノ尙不徹底ト認メラルル地區及事項ニ付テハ此ノ期間ニ於テ夫々地方ノ實情ニ即スル方策ヲ獨立シ特ニ常態ニ於テ印合セシムル等ニ依リ其ノ勵行ヲ期セシムルコト
- (3) 都道府縣ハ地方ノ實情ニ依リ現下最モ徹底ヲ要スト認メラルモノノ内ヨリ數種ヲ選定シ例ヘバ丘ノ事項ノ如キヲ實施セシムルコト

裏面白紙

- (1) 隣組工場ノ普及並ニ隣組挺身隊ノ工場等へノ動員
- (2) 内職副業等家庭勤勞作業ノ徹底
- (3) 共同炊事、共同風呂、共同保育所、共同洗濯等ノ普及
- (4) 買揃、買揃り等ノ抑制
- (5) 忘年會等ノ廢止
- (6) 冠婚葬祭ノ徹底的簡素化
- (7) 修繕更正ノ奨励ト其ノ施設ノ擴充強化
- (8) 快有日用品等ノ交換會ノ設置
- (9) 達成其ノ他ニ藉口スル不急旅行ノ徹底的自廢

裏面白紙